

自衛隊への名簿提供中止の 大きな運動を呼びかける

2020年2月25日

日本共産党福岡市議団

高島宗一郎市長は、本市の若者の名簿を自衛隊に一括提供しようとしています。市民の間に批判の声が広がり、2月22日には広範な市民が集う反対集会が開催されました。政党ではわが党をはじめ、立憲民主党・国民民主党・社会民主党・緑の党・ふくおか市民ネットワークが市政問題で結集する画期的な場となりました。「拙速な名簿提供はおかしい」——この1点での市民と野党の共闘が進展する、新たな機運が高まりつつあります。

もともとこの問題は、自衛隊を海外で殺し・殺される関係に投げ込むという安倍政権の「戦争する国」づくりによって引き起こされたものです。「国防」や災害救助とはなんの関係もない、海外の危険な紛争地やアメリカの戦争で犬死させられる不安が高まる中で、自衛隊には隊員が集まらなくなっています。そうした事態を反動的に打開するために、憲法に自衛隊を書き込んで正当化するとともに、自治体に若者の名簿を無理やり出させようとしているのが安倍政権であり、その先兵になっているのが高島市長です。

実施の前提となる個人情報保護審議会が2月7日に開催されましたが、市のやり方に対する疑問が委員から続出しました。その結果、答申では、市長がした2つの諮問のうち、自衛隊以外にも提供を広く認める諮問は否定され、もう一つの、自衛隊への提供についても、「提供を望まない方について、きちんとした措置を講じる」つまり希望しない市民の名簿は提出しないようにとの条件がつけられ、電磁媒体での提供は認められませんでした。市民の運動が事態を動かしたものです。

2月議会でも市の報告にもとづく審議が行われ、わが党だけでなく、他会派からも批判の声が上がり、いわば“野党共闘”で問題が浮き彫りになりました。特に、審議会が、提供を希望しない市民の名簿は提出しない条件をつけたことについて、市側は市民一人ひとりから同意・不同意を得る方針を示すことができず、「同意は本来必要ない」として審議会答申さえ踏みにじる姿勢を示す重大な矛盾が明らかになりました。議会審議で異論が続出しながら何一つ方針を変えようとしない市側の態度に、与党議員からさえ疑問の声が上がり始めています。

これからの運動が決定的です。拙速な自衛隊への名簿提供を厳しく検証し、やめさせる大きな運動を、立場の違いを超えてご一緒に進めていこうではありませんか。当市議団は心からそのことを呼びかけるものです。



さらなる 国保料引下げ 運動の大波を

2020年2月25日
日本共産党福岡市議団

福岡市国民健康保険運営協議会は、2月5日、高島宗一郎市長の諮問通り、2020年度の国民健康保険料（医療分と支援分）について被保険者1人あたり年平均2000円の値上げを答申しました（介護分を含めると4339円）。また、市長は2月議会でも、「黒字」を21億円も出しながらそれを基金にためこんで国保料値上げを前提とする国保基金条例を提案し、可決成立させました。これらは引下げを求め市議会に提出された3万2000筆もの市民の請願署名に背くものであり、わが党市議団はこのような値上げを断じて認めることはできません。

2月議会の審議の中で、わが党は市長の提案した国保料値上げを徹底追及し、いくつかの点を明らかにしてきました。

今回の値上げは、安倍政権が“保険料を下げるための法定外繰入をなくす計画を立てよ”と自治体に押しつけていることに追随したのですが、国のやり方に従う義務がないと国会で答弁されていることが審議で明確になりました。

また、国保会計の21億円もの「黒字」は「負担の緩和」に使ってよいとされており、これを活用すれば、子どもの均等割（6億円分）をなくした上に、さらに引下げも可能であることも審議で浮き彫りとなりました。

さらに、国保料引下げを約束して初当選した高島市長にとって、10年越しの公約違反となることを本会議で追及したところ、市長は答弁に立てなくなり、局長が代わりに「市長公約」について言い訳するという醜態までさらしました。

運動の前に追い詰められているのは市長の側です。国保会計への1兆円投入を求める団体請願が新たに開始されるなど、運動はこれからが正念場です。第一次の署名提出後も1回の行動で70筆、80筆集まるなど、引き続き市内各地で署名への旺盛な反応が広がっています。

3月議会では値上げを含む新年度の一般会計や国保特別会計の予算案が審議され、4月以降には国保引下げ署名の請願審査も行われ、市長とともに各党派・議員の態度が厳しく問われます。日本共産党市議団は、市民のみなさんと力を合わせ、議会での奮闘を決意するとともに、引下げ署名をはじめ運動の大波を起こすことを訴えるものです。ごいっしょに、値上げをストップし、引下げをかちとりましょう。